

TTC 提案山行実施記録

2024 年 10 月 15 日 M.H

山行名	大朝日岳 [1870, 7m 山形県]						
実施日	2024 年 10 月 5 日 (土) ~7 日 (月) マイカー						
天候/参加人員	天候:曇り レベル:★★★ 参加者:6名(男3名/女3名)						
パーティスタッフ	省略						
参加メンバ	省略						
費用 (1人当たり) カンパ金¥200	車両使用料: ¥27,600(920*15*2)、燃料代¥20,940、運転手謝礼: ¥20,000(5000*2*2)、 距離加算:¥1,200(600*2)、高速道路代(圏央厚木 IC~南陽高島 IC ¥14,320(:@7160*2)、西川 IC~圏央厚木 IC: ¥21,740(@10,870*2)、ナチュラルリストの家宿泊代(送迎代含む) ¥72,000:(@12,000*6名)、大朝日小屋協力金: ¥12,000(@2,000*6名)、朝日鉱泉入浴料: ¥3,600(@600*6名)、ガスカートリッジ ¥1,000(@500*2個)、 通信費 ¥1,000、カンパ金 ¥200 合計 195,600 円 ⇒ 一人当たり ¥32,600 円						
所要時間	-	歩行時間		休憩時間		行動時間	
		10/06	10/07	10/06	10/07	10/06	10/07
	計画	7:00	6:30	2:00	2:00	9:00	8:30
	実行*	6:16	6:33	1:39	0:52	7:55	7:25
実行コースタイム記録							
10/5[土] 厚木====圏央厚木 IC====佐野 PA====安達太良 SA====南陽高島 IC====道の駅「川のみなと長井」==== 6:30-40 7:00 8:35-55 10:30- 10:45 12:00 12:42-13:23 ====朝日鉱泉ナチュラルリストの家(泊 14:05							
10/6[日] 送迎バス 1:25(休 15') 5' 1:08(休 10') 40' 2:10(休 15') 朝日鉱泉====古寺鉱泉-----服清水-----ハナヌキ峰分岐-----古寺山-----小朝日岳----- 4:30 5:30-40 7:20-25 7:30 8:48-55 9:35-45 給水 屋食 30' 18' 銀玉水-----大朝日小屋-----大朝日岳-----大朝日小屋(避難小屋泊) 12:10-42 13:12-22 13:40							
10/7[月] 大朝日小屋-----小朝日岳-----鳥原山-----入浴・屋食 4:30 起床-5:00 7:08-15 9:50-10:00 12:25-13:43 安達太良 SA 夕食 ====佐野 SA====圏央厚木 IC====本厚木 18:40-19:30 20:50 21:10							
コースの概要、特記事項、反省事項等							
[コース概要] ・朝日鉱泉からの送迎車が予定の時刻より 1 時間早く出発したので、古寺鉱泉からの出発も 1 時間早まった。古寺鉱泉から古寺山の肩までは樹林帯が続き、展望は望めない。途中、一服清水の水場で休憩をとった。急登まじりの古寺山までの道のを過ぎると、なだらかな尾根に出た。古寺山からは、小朝日岳大朝日岳の眺望を、また、小朝日岳からは朝日連峰を一望できるはずだったが、霧に阻まれ、時々、その全容を垣間見るとどまった。小朝日岳から大朝日岳までは灌木の中を下り、その後稜線に出て、銀玉水の水場に降りる広場に出たが、そこからは大朝日岳を見上げることができた。水場はすぐ近くのところであり、皆そこで給水をしていよいよ大朝日岳の長い登りに取り掛かった。その頃は霧が時折晴れ、はるか遠くまで勇壮な山容を望めることもできるようになった。小屋に着いて荷物を置き、大朝日岳まで登った。頂上からは時々晴れる霧を待ちながらの眺めだった。登山中は霧が眺望を隠してしまうことが多かったが、その分雲海が変化するさまを楽しむこともできた。 ・下山は、計画では中ツルコースを選択する予定だったが、危険箇所があるということで、時間は 1 時間多くかかる鳥原コースを下ることにした。小朝日岳までは行きと同じコースを戻ったが、急登でかなり厳しく岩がゴロゴロの登山道を、息を切らしながら登った。途中、避難小屋と大朝日岳を望めることができ、歓声が上がった。その後、木道が続き、ところどころに池塘が見られ、湿原の紅葉を楽しむことができた。長い下りを根気よく下り、朝日鉱泉までたどり着いたときは、ほっとした。							

[特記事項]

1. 朝日鉱泉の夕食は、山で取れたきのこや、山菜、魚などが満載の献立でおいしくいただくことができた。
2. 例年ならもっと紅葉の山を見られるはずが、今年は夏の猛暑のせいで紅葉はいまいちの状態だった。
だが、山頂近くには筋状に紅葉が見られ、赤や黄色、緑のコントラストの美しさを楽しむことができた。
3. 計画と違い、1時間ほど余計に時間がかかる鳥原山コースを下山したが、下山後、中ツルコースを下山したご夫婦と話したところ、さほど危ない箇所はなかったという話を聞いた。もっと下山道のコースについて詳しく調べておくべきだと感じた。
4. 1週間前までは、「てんきとくらす」の予報が3日間ともCだった。実施は無理そうだと心配していたところ、予報が好転し3日間ともAとなった。2日間、快晴とはいかずとも、雨には遭うことなく無事登頂し、下山できたことはありがたかった。皆様のご協力に感謝します。ありがとうございました。